

# 平成30年度（平成29年度実施分）個別施策評価シート

委員長案

①建設産業委員会

評価する個別施策	<b>3Rの普及・啓発</b> ・環境への負荷低減と天然資源の消費節減を図るため、ごみの発生・排出抑制（リデュース）、製品等の再使用（リユース）、資源の再生利用（リサイクル）の3Rの普及・啓発を図ります。
----------	---

項目別評価 ※評価欄の該当項目に○印を付け、判断理由・評価コメント欄は必ず記入してください。

評価項目	評価基準			判断理由・評価コメント
	点数	チェック	評価点	
個別施策の実現に向けて順調か	概ね順調	76～100		25 <b>進んでいる点：</b> ・少しずつではあるがごみ排出量の減量化が進んでいる。 <b>遅れている点：</b> ・ごみの減量についての説明が不足しており、必要性が市民に理解されていない。 ・普及・啓発等を行うための具体的な事業の手段や活動内容が的を得ていない。 「その他コメント」 ・ごみ分別アプリ「さんあーる」のPRが不足している
	どちらかといえば順調	51～75		
	どちらかといえば遅れている	26～50		
	遅れている	0～25	○	
構成する事務事業は、個別施策を実現するために有効か	個別施策実現のために必要な内容が不足していないか			「不足している」 ・ごみの減量についての説明が不足しており、必要性が市民に理解されていない。 ・3R【発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、資源化（リサイクル）】の意味と内容の説明が不足している。
	無駄な事業・内容はないか（不要な事業、類似事業を含む）			無し
	その他コメント			・ごみ処理には費用がかかる。捨てればごみ、分ければ資源。なんでも捨てればいい。以上の意識の改革が必要である。 ・3Rでなく、時代にあった普及啓発事業が不足している。 リペア（修理修繕）・リターン（販売店返却）を追加した5R、または、分別リサイクルは当たり前とし、発生抑制（リデュース）・再使用（リユース）の2Rに絞ることが必要である。
施策の今後の方向	注力すべき事業・内容はあるか。どのように改善するか（事業自体はあるが、改善をすべき内容を記載。委託も。）			「ある」 ・家庭用生ごみ処理機・生ごみ堆肥化容器の全世帯普及を目指す。
	追加すべき事業はないか（事業自体無い、あるいは、不足している内容を記載）			「ある」 ・ごみ減量の普及啓発のため、わかりやすい市民説明会の開催。 ・分別リサイクルはもとより、発生抑制と再使用のため、市内事業者であるコンビニや商店、スーパーなどと連携し協力を仰ぐ。 ・剪定枝の資源化（チップ化）の実施。
	廃止すべき事業・内容はあるか			「なし」
	その他コメント（不要だが廃止しない場合の理由、などを記入）			・3Rの普及・啓発と、3R活動の推進と分けるのではなく、普及啓発は当たり前のことで、推進をいかに行うかが重要であり、それらを一体的に行う必要がある。更に言えば、5Rか2Rに改善して新しく活動を推進すべきである。
その他コメント	半田市の資源循環型地域社会の形成は立ち遅れている。将来世代にどのような社会の形成を行っていくのかを明確にし、様々な形で市民へPRし普及啓発と推進をしていく必要がある			

# 平成30年度（平成29年度実施分）個別施策評価シート

## 委員長案

### ②建設産業委員会

評価する個別施策	<p><b>3 R活動の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみの水切り、堆肥化容器・処理機の利用、マイバッグ・マイ箸・マイボトルの活用等を奨励し、家庭ごみの排出抑制を図ります。</li> <li>・事業系一般廃棄物の実態把握と分別指導を行い、減量化を図ります。</li> <li>・廃食用油・ペットボトルキャップの拠点回収や容器包装回収品目の拡大を図ります。</li> <li>・各自治区・子ども会等の地域集団資源回収を奨励し、地域が主役の3 R活動を推進します。</li> <li>・ごみ出しに関する案内冊子の配布や、ごみ減量推進員の活動を通じてごみ分別の徹底を図ります。</li> </ul>
----------	---

項目別評価 ※評価欄の該当項目に○印を付け、判断理由・評価コメント欄は必ず記入してください。

評価項目	評価基準			判断理由・評価コメント	
	点数	チェック	評価点		
個別施策の実現に向けて順調か	概ね順調	76~100		40	<p><b>進んでいる点:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自治区で行われている資源回収はおおむね順調に行われている。</li> </ul>
	どちらかといえば順調	51~75			<p><b>遅れている点:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの減量についての説明が不足しており、必要性が市民に理解されていない。</li> <li>・3 R活動の推進を行うための具体的な事業の手段や活動内容が的を得ていない。</li> </ul>
	どちらかといえば遅れている	26~50	○		<p>「その他コメント」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみ分別アプリ「さんあーる」のPRが不足している。</li> <li>・従来型の集団資源回収には課題がある。</li> </ul>
	遅れている	0~25			
構成する事務事業は、個別施策を実現するために有効か	個別施策実現のために必要な内容が不足していないか			<p>「不足している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・推進についての説明が不足しており、必要性が市民に理解されていない。</li> <li>・市民への活動推進について、具体的な事業が不足している</li> <li>・時代に合った3 Rの活動推進事業が不足している。</li> </ul>	
	無駄な事業・内容はないか（不要な事業、類似事業を含む）			無し	
	その他コメント				
施策の今後の方向	注力すべき事業・内容はあるか。どのように改善するか（事業自体はあるが、改善すべき内容を記載。委託も。）			<p>「ある」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市報、アプリ、ゴミ袋の表示等の見直しとPR活動の抜本的な改革。</li> <li>・市民にとって利用しやすい資源回収拠点の整備。</li> </ul>	
	追加すべき事業はないか（事業自体無い、あるいは、不足している内容を記載）			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの中に再生可能な資源（紙、ペットボトル、缶等）が多く含まれることが原因と認識しているが、対策事業が足りていない。</li> <li>・市民にさらなる興味を持ってもらうための方策。アンケートやごみ出し講座を地域で行う。</li> <li>・わかりやすいごみ処理経費の明示。</li> <li>・ごみ出しカレンダーの作成。</li> <li>・市内事業者であるスーパーなどをさらに利用するため、回収品目を増やすなどの協力を仰ぐ。</li> <li>・資源を家にためておけないので、いつでも出せる資源回収拠点を自治区単位や公共施設などに設置する。</li> <li>・家庭ごみの排出抑制を図る具体的な取り組み（食品ロス削減、生ごみの水切り、堆肥化）を行う。</li> <li>・剪定枝の資源化。</li> </ul>	
	廃止すべき事業・内容はあるか			「なし」	
	その他コメント（不要だが廃止しない場合の理由、などを記入）			<ul style="list-style-type: none"> <li>・3 Rの普及・啓発と、3 R活動の推進と分けるのではなく、普及啓発は当たり前のことで、推進をいかに行うかが重要であり、それらを一体的に行う必要がある。更に言えば、5 Rか2 Rに改善して新しく活動を推進すべきである。</li> </ul>	
その他コメント				<ul style="list-style-type: none"> <li>・半田市の資源循環型地域社会の形成は立ち遅れている。将来世代にどのような社会の形成を行っていくのかを明確にし、様々な形で市民へPRし普及啓発と推進をしていく必要がある。</li> </ul>	

# 平成30年度（平成29年度実施分）個別施策評価シート

## 委員長案

### ③建設産業委員会

評価する個別施策	<p><b>廃棄物の適正処理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ごみの減量化・資源化等を進めて一般廃棄物最終処分場の延命化を図ります。</li> <li>産業廃棄物の適正処理について、関係機関と連携して指導監視に努めるとともに不法投棄の未然防止に努めます。</li> <li>生し尿及び浄化槽汚泥は、中部知多衛生組合で適切に処理します。</li> </ul>
----------	---

項目別評価 ※評価欄の該当項目に○印を付け、判断理由・評価コメント欄は必ず記入してください。

評価項目	評価基準			判断理由・評価コメント	
	点数	チェック	評価点		
個別施策の実現に向けて順調か	概ね順調	76～100		45	<p><b>進んでいる点：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プラ・ペットボトルの委託事業。</li> <li>ごみステーションの迅速なネット張替えやゴミステーションの修繕。</li> <li>ゴミ収集委託費用が安くあがっている。</li> <li>マンション、アパートのごみステーションの設置数。</li> </ul>
	どちらかといえば順調	51～75			<p><b>遅れている点：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭ごみの減量化や資源化の推進。</li> <li>事業が混在している。</li> </ul>
	どちらかといえば遅れている	26～50	○		<p>「その他コメント」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1ステーション25世帯という基準を超えるステーションが100ヶ所以上ある。</li> </ul>
	遅れている	0～25			
構成する事務事業は、個別施策を実現するために有効か	個別施策実現のために必要な内容が不足していないか			<p>「不足している」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭ごみの減量化と資源化を推進する事業。</li> </ul>	
	無駄な事業・内容はないか（不要な事業、類似事業を含む）			「なし」	
	その他コメント			<p>「その他コメント」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ごみの減量化・資源化の推進と、不法投棄の未然防止、委託事業、中部知多衛生組合など、この個別施策に様々な事業が入りすぎている。</li> </ul>	
施策の今後の方向	注力すべき事業・内容はあるか。どのように改善するか（事業自体はあるが、改善をすべき内容を記載。委託も。）			<p>「ある」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭系ごみに特化した、ごみの減量化と資源化の推進。</li> </ul>	
	追加すべき事業はないか（事業自体無い、あるいは、不足している内容を記載）			<ul style="list-style-type: none"> <li>市民に見える化する（ごみ減量の効果を市民に知らせて、ごみに対する意識や関心を深める）。</li> <li>ごみステーションへの不適切な排出を防止する対策。</li> <li>各地域にいつでも捨てることのできる「資源ごみステーション」の整備。</li> <li>基準（25世帯に1ヵ所）を満たしたごみステーションの整備。</li> </ul>	
	廃止すべき事業・内容はあるか			無し	
	その他コメント（不要だが廃止しない場合の理由、などを記入）			<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみステーションのあり方と適正配置、ごみステーションの不適切排出、ごみ収集委託業者との連携（H30年7月全面委託化）については、ごみ減量の普及啓発・推進という枠組みの中で事業を行う必要がある。</li> </ul>	
その他コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物の適正処理は、ごみ処理の広域化と両輪の事業であるため、事業内容の見直しも含めて、今後より一層きめ細かい事業展開が必要である。</li> <li>ごみ捨てトラブルへの対応と協力体制の強化。</li> </ul>				

# 平成30年度（平成29年度実施分）個別施策評価シート

## 委員長案

### ④建設産業委員会

評価する個別施策	<b>老朽化建築物・空家の適正管理の促進</b> ・老朽化した建物の倒壊を防ぐため、建て替え・取壊し、空家の適正管理を促進します。
----------	--

項目別評価 ※評価欄の該当項目に○印を付け、判断理由・評価コメント欄は必ず記入してください。

評価項目	評価基準			判断理由・評価コメント	
	点数	チェック	評価点		
個別施策の実現に向けて順調か	概ね順調	76～100		40	<b>進んでいる点：</b> ・補助制度を活用し、取り壊し件数が増えている。
	どちらかといえば順調	51～75			<b>遅れている点：</b> ・減災意識の啓発。 ・危険個所（建築物やブロック塀）の把握。
	どちらかといえば遅れている	26～50	○		「その他コメント」 ・特に市内危険ブロック塀の撤去が課題であるが、その具体的な件数が明確ではない
	遅れている	0～25			
構成する事務事業は、個別施策を実現するために有効か	個別施策実現のために必要な内容が不足していないか			「不足している」 ・危険個所の実態把握。 ・減災意識の啓発事業。 ・市民相談窓口の設置。	
	無駄な事業・内容はないか（不要な事業、類似事業を含む）			無し	
	その他コメント				
施策の今後の方向	注力すべき事業・内容はあるか。どのように改善するか（事業自体はあるが、改善をすべき内容を記載。委託も。）			「ある」 ・老朽化建築物・空家等の適正管理対象の実態把握。	
	追加すべき事業はないか（事業自体無い、あるいは、不足している内容を記載）			・危険建築物の所有者に対して適正管理を促す事業。 地域の民生委員や見守りの人の協力 ・通学路や避難路の適正管理の強化。 学校教育課や防災交通課との連携 地域や保護者との連携 地域の自主防災会との連携 危険度高ランクの構造物に対する更なる補助制度 ・減災意識啓発事業。 危険度ランクを地図に示す。 ・相談窓口の創設。	
	廃止すべき事業・内容はあるか			無し	
	その他コメント（不要だが廃止しない場合の理由、などを記入）				
その他コメント	・危険建築物の課題解決のためには、優遇税制の適用を考慮。 ・半田市で悲しい事故が起こらないよう、交渉人のスキルアップが必要。				